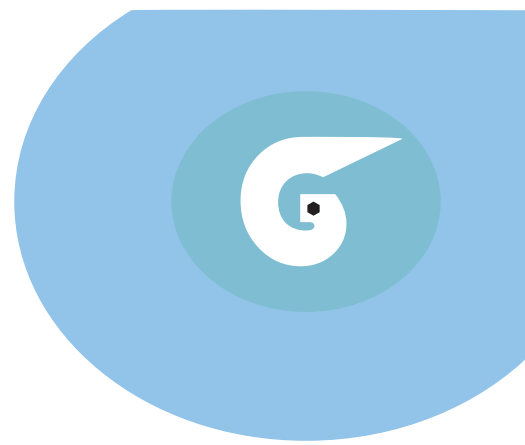


NOROCON



セメント汚れ除去用洗浄剤 <ノロコン>

エフロレッセンス ノロ 除去洗浄

CONCRE CON CON 特殊洗浄剤



NOROCON

洗浄剤コンクリコンコンのシリーズとは、建設現場の強い要望により開発された製品です。各施工シーンに特化したタイプのもので用途の限定された製品となっておりますが、それぞれの洗浄剤のその性能・洗浄力は類を見ないほどの仕上がり感を実現できる特殊なものです。現在はこのNOROCONの他に3種類のラインナップがございます。



ココがすごい!

インターロッキングブロック (ILB) の内部のエフロまで除去!!

用途

- ①建設機械・アジテータ車・足場・鋼製型枠等に付着したコンクリートの汚れの除去
- ②その他、スケール・さび・染み・ノロ等の汚れ除去
- ③石材・タイル目地、階段部分や玄関、壁面からにじみ出たエフロ(白華スケール)の除去

特長

- ・有機酸を主成分としており人と環境に優しい洗浄剤
- ・鉄・ステンレス等の金属への影響が少ない成分
- ・腐食性を抑えてありますので、金属に付着したコンクリートや水垢などのスケール除去に適しています。

主な成分

有機酸・腐食防止剤

使用方法

業務用の為、ご使用前に必ず安全データシートを確認し、よく理解した上で使用を開始して下さい。

- ①本剤を原液のまま汚れ部分にブラシ等で塗布。
- ②本剤を塗布後しばらく(2~5分程度)反応時間を置き、汚れの度合いに応じてブラッシングを行う。
- ③付着汚れが除去出来るまで②の作業を繰り返す
*余剰分の本剤はスポンジ等で回収する。
- ④最後は本剤が残らないようしっかり水洗いする。

使用上の注意

- ・使用に際しては、保護手袋・保護メガネ・保護マスクを着用し、目や皮膚に付着しないよう注意して下さい。
- ・本剤は金属への影響を抑えてありますが、影響が

ゼロというわけではありませんので目立たないところで試してから使用してください。(特に酸に弱い材質(亜鉛系、大理石等)には注意)

・金属へ本剤を塗布したまま長時間放置すると変色する恐れがありますので、使用後は必ず多量の水で洗い流してください。

・施工部分以外に本剤が付着しないように注意し、かかってしまった場合には放置せずにすぐに水洗いをしてください。

・他の洗浄剤と混合使用や併用をしないでください。

Product Details

業務用

4 Kg

酸性

製品有効期限：未開封冷暗所保管で購入より1年

*使用量は基材や除去対象の状態により異なります

設計価格 (List price) : 4Kg

4Kg×4本 (16kg)

連絡先:



グラフトンラボラトリーズ株式会社

本社：東京都大田区大森南 4-6-15

テクノ FRONT 森ヶ崎 5F

営業所：東京都品川区東五反田

1-11-17 4F

TEL: 03-6277-4090 FAX: 03-6277-4091

be@co60.com

NOROCON - bits of information:

エフロレッセンス(白華)という現象

エフロレッセンス(白華現象)が表出する主な原因は、水がタイル等の裏側へ入ると、モルタル中の水酸化カルシウムCa(OH)₂が、浸入した雨水などに溶けて目地部やクラックからしみ出てきます。それが空気中の炭酸ガスと反応して炭酸カルシウムCaCO₃となったものです。カルシウムだけではなくマグネシウムやナトリウム類が混じることもあります。白く変色したように見えるので施工主様からのクレームとなりやすい現象です。はなたれや粉吹きとも言われ鍾乳洞で鍾乳石が出来るのと同じ原理です。また吸水性で多孔質の無釉タイルや貫入の多く入ったタイルを使用した場合、ILB(インターロッキング等)を使用した場合、水は接地面や表面より吸い込み石灰成分を溶かして表面に引き出します。この場合は目地部から出る白華と異なりタイル前面に広い範囲で薄く白っぽく変色した様になります。これらは『NOROCON』で洗浄を行えば一時的に除去することが出来ますが、後日また再発する為、綺麗に白華を除去した後、水の浸入箇所を補修する必要があります。白華が出ない様な下地の選定と素材の選定、施工方法、表面コーティング(ケイ酸塩系)等の併用が大切です。

・エフロと温度(℃)

低温の場合の方が水酸化カルシウムが水に溶けやすく、それが乾燥により表面に析出しやすくなり空気中の炭酸ガスと反応します。特に秋から冬にかけて発生しやすく、建物の日陰や北側にもエフロレッセンスが多くみられます。



エフロが発生しやすい場所

雨水などの進入から発生することが多く、乾いたり濡れたりを繰り返す場所が、エフロレッセンスの発生しやすい箇所となります。目地やクラックの周辺の一部に特に発生しやすく、砂岩・大理石・レンガや透水性の高い建材(ILB等)の場合は、エフロレッセンスが析出しやすい傾向にあります。常に濡れている建材からは炭酸カルシウムが生成されにくい為、エフロレッセンスは発生しにくい箇所となります。

